



富山市立 岩瀬小学校

校長：金枝 仁治先生
 指導教諭：小林 正昭先生
 発表児童：5年 松組(18名)



約50年前、児童数1900名余りを誇った岩瀬小学校。現在の児童数は182名となっていますが、元気いっぱいの子供たちは健在です。岩瀬っ子の子供たちは、「岩瀬曳山車祭、みなと祭、白えび祭、ぶり・ノーベル街道祭」などの地域行事に一致団結して協力しています。

モダンな外観の校舎は3年前に新築され、地区センターや図書館とつながっている構造なので、子供たちは地域の人と一緒に読書を楽しむことができます。

発表テーマ

おいしい富山の水

私たちは、「水は、限りある貴重な環境資源である。」ということをお忘れではないでしょうか。よりよい状態でこの水資源を未来の人たちにバトンタッチしなければいけないことをお忘れではないでしょうか。そこで、次の5つのグループ(岩瀬の白えび・日本酒・漂着物・水質検査・富山の水)に分かれて調査した結果と分かったことについて発表し、今、私たちに出来ることや考えていることを発信します。

小林 正昭 先生より

おいしい富山の水を守りたいと願って 取り組みを進めた31名の子供たち

子供たちは、「岩瀬漁港、日本酒、漂着物、水質検査、富山の水」の5つのグループに分かれて調査活動や実践を重ねました。

10月の学習発表会では、クラス31名全員でその結果について発表し、保護者や地域の方々にも広めることができました。

今回のサンフォルテでの本発表では、18人と少ない人数でしたが、会場に来れなかったクラスメートの分までしっかりと発表することができました。そして、自分たちの取り組みにより大きな自信を付けることができました。

これからも、「富山の水みらい」のために一層の努力を積み重ねてほしいと願っています。



▲榊田酒造店で伏流水・水道水・ミネラルウォーターのきき水をさせていただきました。



▲立山麓森林組合理事長の伊藤さんに協力してもらい、桜の苗木のお世話ができました。



▲白エビ漁の漁船に乗せてもらいました。



▲お世話になった岩瀬漁協の道井さん・榊田酒造の榊田社長さんと一緒に、朝とれの白エビのから揚げを食べました。



考えたこと!感じたこと!

協力してくださった方々、
ありがとうございます。

上田 美月(5年生)

「水みらいプロジェクト2006」の発表会に向けて私たちは、「おいしい富山の水」をテーマにして、調査を進めたり、実践を積んだりしてきました。

11月12日のサンフォルテでの発表会では、一番最初の発表だったので、少し緊張していました。しかし、そのわりには、とても上手に発表できたと思います。

そのとき、強く思ったことがあります。それは、この発表のために、いろいろな人たちに協力してもらったから、満足できる発表ができたんだということです。

今まで、協力してくださった人たち、ありがとうございました。このことは、いつまでも覚えておきたいと思います。



▲日本海沿岸の漂着物調査には、毎年、協力して調べています。

学習テーマの設定

岩瀬と水の深い関係

私たちの学校がある岩瀬は、最近富山ライトレールや岩瀬曳山(ひきやま)祭、ぶり・ノーベル街道の起点などで、注目が高まっています。そして水と岩瀬も関係が深いのです。



5つのグループで調査
そこで「白エビ」「日本酒」「漂着物」「水質検査」「富山の水」の5つのグループに分かれて、岩瀬と水の関係について調べることにしました。

学習の展開

白エビにも人にも水が大切
山から海へきれいな水が流れこむことや、富山湾の独特の地形など…。白エビがよく育ち、岩瀬でたくさんとれる理由を岩瀬漁協の道井さんに教わりました。



自分のポイ捨ても問題だ
岩瀬浜で10m四方の中の、1cm以上の人工物を集めたら…プラスチックや発泡スチロールなどがいっぱい! 海につながる川にポイ捨てしがちな自分たちの問題も考えなくてはなりません。

富山県漁協青年部会長 岩瀬漁協 道井さんに教えてもらったよ
おいしい水で日本酒づくり
岩瀬のお酒・満寿泉(ますいずみ)は立山の伏流水で作っているそうです。水道水・伏流水・ミネラルウォーターの「きき水」をして、富山の水のおいしさをあらためて実感しました。



次の世代へ伝えるために
山や川、大地、森などが、富山の水をおいしくします。この水を次の世代へ残すために、ゴミを捨てない、ゴミを拾う、ゴミを川や海に流さないなど、自分たちができることから行動!

水を汚す私たちの生活排水
岩瀬港、岩瀬運河、神通川源流(高山市一之宮町宮川)と下流の4カ所で水質を調査しました。下流や海でもCOD(有機物)やチッソ、リンが増えているのは、工場排水だけでなく生活排水の影響もあるようです。

